

平成30年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 基礎学力の向上と「生徒指導の3機能」を生かした授業づくり	① 生徒の自己存在に配慮したわかりやすい授業づくりを目指し、板書や教材、話し方や説明などを工夫する。	教務課 各教科	約8割の生徒が授業がわかりやすいと回答している一方で、授業中の居眠りも散見される。引き続き、わかりやすい授業への工夫と適切な課題の与え方など、授業の改善が必要である。	【満足度指標】 授業が工夫されていて、わかりやすいと感じる生徒を増やす。	生徒による授業評価において「授業がわかりやすい」、「教え方を工夫している」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
	② 生徒の自己決定感や共感的人間関係に配慮した主体的・対話的な授業づくりを目指し、発表活動やグループ活動を効果的に取り入れる。	教務課 各教科	ペア学習やグループ学習などを通して、対話的な授業は少しずつ実践されているが、「生徒が発言する場面」が多いとする評価が十分ではないので、生徒の発表力を育てる設定授業を考えるなどで、引き続き積極的な実践が必要である。	【満足度指標】 主体的に授業に参加し、対話的に学習していると感じる生徒を増やす。	生徒による授業評価において、「グループ学習などで生徒が発言する場面が多い」、「授業中に自分でよく考えるように努めている」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
	③ わかりやすい授業づくりの一環として、特にICT機器を効果的に活用した授業づくりに努める。	教務課 各教科	ICT機器の活用やグループ学習は多くの授業で取り組まれているが、生徒が主体的に学習し、思考力を高めるためには効果的な活用方法を求めていく必要がある。	【努力指標】 ICT機器を積極的に活用した授業改善に努める。	生徒による授業評価において「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 ※ただし、実習科目を除く	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
	④ 落ち着いた雰囲気の中で日課をスタートさせるために、5分間の朝学習に取り組む。	全学年 生徒指導 特別活動	生徒指導課が中心となって登校時に身なりや遅刻の指導を行っているが、前年度の遅刻者数は1日平均1.92人であった。今年度も引き続き、基本的な生活習慣の定着を図る必要がある。	【成果指標】 生徒全員が遅刻しないように登校している。	遅刻者数は1日平均 A 1.5人未満である。 B 2.0人未満である。 C 3.0人未満である。 D 4.0人以上である。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、1回ずつ実施調査する。
	⑤ 生徒の体力づくりに対する意欲が向上するよう体力テストのデータを活用し、目標を明確にするなどで授業を工夫する。	体育科 各学年	昨年度の取り組みにより、体力の向上が若干見られたが、体力テストの県平均には、まだ及んでいない。更に継続して体力の向上を図り、県平均以上の結果が出せるよう指導する必要がある。	【成果指標】 新体力テストでの持久走等の評価においてA、B群を目指す。	新体力テストの持久走で6点以上の生徒が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 40%未満	CまたはDの場合、改善策を検討する。	年2回(5月、2月)の測定により評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2 生徒の適性に応じた志望進路の実現	① 生徒が主体的に将来の進路をしっかりと考え、進路実現に向けて取り組むよう、各事業の事前・事後学習を充実させる。	進路指導 学級担任	進路選択に際し、自ら将来を見通して、行動できる生徒が少ない。外部講師による講話や施設見学、企業ガイダンスでは、生徒が能動的に学習するよう、各事業においての事前・事後学習を推進する必要がある。	【満足度指標】 それぞれの学年の生徒の実態に対応した進路行事を企画する。	学校の進路ガイダンスが、主体的に将来を考える上で役立っているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	各学年の進路行事の際に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	② 担任や進路担当者が生徒との面談で、次回に保護者との相談結果を報告してくれるよう指導し、生徒の進路意識の高揚を図る。	進路指導 学級担任	保護者面談での情報提供や進路説明会等を契機として、低学年の段階から家庭で、生徒と将来について話す機会を持つようお願いしているが、十分な成果が得られていない。	【成果指標】 生徒が家庭で進路について相談する回数を増やす。	家庭で、生徒の将来の進路について、話しているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、保護者にアンケートを実施する。 (保護者の学校評価)
	③ インターンシップや長期型企業実習前に、実施の目的を説明し、基本的な接遇指導を徹底して行う。	進路指導 学級担任	2年生の就職希望者を対象にインターンシップ、または長期型企業実習を実施しているが、受け入れ企業からは挨拶や返事など、基本的な接遇について改善を求められているので、教育活動を通して十分な指導をする必要がある。	【成果指標】 生徒の接遇態度に対する受け入れ企業側の評価向上を目指す。	受け入れ事業所の実施後アンケートにおいて、生徒の接遇に関する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	7月から9月の実施後、受け入れ企業にアンケートを実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 特別活動の推進による学校の活性化と規範意識の醸成	① 部活動の指導方法等について顧問が研修を深め、生徒の意欲を引き出す効果的な指導の工夫・改善に取り組む。	特別活動 全教職員	部活動登録者のうち、活動日の8割以上参加している生徒は84%であるが、学校の活性化に繋げるためには、100%に近い部活動への参加率が必要である。	【成果指標】 部活動への参加率を高める。	1・2年生における部活動への参加状況は、週の活動日に対して、8割以上参加しているという肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、部顧問が参加稼働率を報告する。
	② 生徒会執行部が部活動にも働きかけて、学校全体で朝の挨拶運動に取り組む。	特別活動 部活動 生徒指導	目を合わせて挨拶していると答える生徒は72%いるが、そのうち50%の生徒は常にはいえないと回答している。常に自分から大きな声で挨拶する態度を育てたい。	【成果指標】 生徒が相手の目を見て大きな声で挨拶をできる学校にする。	生徒の学校評価において、「自分から進んで挨拶している」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	③ 清掃活動を通して、生徒が衛生面への意識が向上するように、教室美化に重点的に取り組む。	保健環境 全教職員	美化コンクールを実施したことで、各教室の整理整頓ができるようになってきた。今年度は、7・9・11月の教室についての美化コンクールを行い、意識の改善を図りたい。	【成果指標】 各教室のゴミが毎日処理され、机椅子が整頓された状態である。	教室が毎日の清掃活動で美しく、衛生的であると判断する生徒の肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	④ 頭髪・服装の身だしなみの乱れや違反している生徒に対して、朝の登校指導および昼の校内巡視を継続して実施する。	生徒指導 全教職員	「生徒に声かけをし、その場で服装を直させるよう心掛けている」のは、78%であるが、100%を目指す必要がある。身だしなみを正す指導と同時に、挨拶の励行など、社会人となる基礎的な資質を育成する指導を行うことが大切である。	【努力指標】 全教職員の共通理解のもとで登校指導等や挨拶や規範意識の定着を図る。	登校指導や校内巡視に私は、生徒に声かけしているとする肯定的評価が A100%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員のアンケート)
	⑤ いじめのない学校づくりを目指し、学校生活全般を通して全教職員が生徒の変化を見逃さないような取組を行う。	生徒指導 全教職員	いじめの未然防止として、アンケート調査や生徒面談での生徒理解、登校指導や昼食時の校舎内の巡回。また、ネットでの書き込みについて指導を行っているが、組織的・計画的な取組を推進したい。	【努力指標】 アンケートや面談、校内巡視により、生徒の動向を掴み、いじめの未然防止に繋げる。	アンケートや面談での生徒理解、校内巡視等を通して、生徒の動向を把握し、いじめの未然防止と早期対策に努めているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員のアンケート)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
4 地域から信頼される開かれた学校づくりの推進	① 生徒のボランティア活動や地域への貢献活動等の参加を積極的に推進していく。	特別活動 学級担任	学校全体や部活動毎の通学路清掃や募金活動、地域イベント等に参加しており、自己有用感が高まったと感じている生徒は72%に留まっているが、地域への参画意識やボランティア精神を高めるためには、継続的な取組が必要である。	【満足度指標】 生徒のボランティア活動や地域活動をとらえて生徒のボランティア精神の向上を目指す。	ボランティア活動や地域の活動に参加することで、ボランティア意識や自己有用感が高まったとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	② 専門高校として地域社会と連携した実践的な学習を推進する。	工業科 演劇科 総合経営 学科 全教職員	8割の生徒が地域と連携する取り組みに参加できていると実感している。今年度も「七尾城の魅力発見発信プロジェクト」をはじめとする各専門学科の学習は、地域と密接に関連し、生徒自身の将来に役立つものにする必要がある。	【満足度指標】 工業・演劇・農業・商業の分野で地域における体験的な学習が積極的に行われている。	専門学科での地域と連携する事業や学習において実践的な取り組みができているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	③ 本校の教育活動状況をホームページの更新やメール配信等で積極的に情報提供する。	全教職員	保護者や地域に対して本校の教育活動に理解や支援を求め、学校の活性化を図るためには、まず日々の活動状況を迅速かつ適切に情報提供し、開かれた学校づくりに積極的に取り組むことが必要である。	【努力指標】 本校の教育活動状況に関する情報提供を迅速かつ適切に行う。	本校の教育活動状況についての情報提供が行われているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、保護者にアンケートを実施する。 (保護者の学校評価)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
5 教職員の業務負担を点検して業務の適正化に取り組む時間外勤務時間の平均を前年度より減少させる	① 各業務に使える時間と業務の目標を立て、具体的な手立てを明確にし、働き方そのものを見直しを図る。	全教職員	「働き方改革」を念頭に置いて、時間外での勤務時間を減少させ、職員の健康・安全の確保と心地よい職場環境づくりに努めている。部活動や資格取得等も含めた補習などに時間を費やしている現状であるが、指導の質を維持しながら、時間外勤務時間を減少させたい。	【努力指標】 教員の時間外勤務の時間を確実に減少させる。	教職員ひとりひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいるとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員のアンケート)